

令和3年度 第2回学校運営協議会 議事録

日 時：令和3年11月20日（土）午前9:30～12:00

場 所：大阪府立布施北高等学校 展開1教室

出席者：高田克己様、中西進泰様、菊地栄治様、浅岡美和様、西村芳世様、（塚本佳秀様欠席）、
校長、教頭(2人)、事務長、首席(2人)、教諭(2人)

1. 会長および校長あいさつ

2. 協議

（学校より）

- ・「令和3年度学校教育自己診断」の質問項目について説明

（ご意見等）

- ・一つの質問に別の次元の項目を入れないほうがよい。その場合は質問を分けるべきだ。
- ・「30分授業は苦手な分野の学び直しに役立っている」などの質問項目は、学校側の思いが強く出すぎている。「生徒目線」での言葉にしたほうがよいのでは。

3. 授業見学

4. 意見交換：【学校の広報戦略～中学生に本校の良さをいかに伝えるか～】

（ご意見等）

- ・中学訪問に持参する資料を見て、取り組みが素晴らしいと感じた。
- ・布施北の武器は何かと考えていたが、デュアルがそうだと思う。デュアルを発展させていくこと、広げていくことが本校の広報戦略となる。これからはTVや新聞でのアピール、マスコミへの広報活動も積極的に取り組んでいけばよいのでは。
- ・パンフレットなどには生徒や卒業生の言葉は取り上げられるが、そこに「保護者の言葉」などを加えてもよいと思う。「保護者目線」の広報があってもよい。
- ・中学生が不安に思っていることは、入学後の友人や先輩との関係が上手くいくかということ。学校で生徒たちが頑張っている様子を生で見てもらうとよいと思う。先ほどの授業見学では、次に自分の発表が控えているにも関わらず友だちの発表をしっかりと聞いている姿に感動した。そんな様子を発信すれば良いのではないだろうか。
- ・マスコミの取材の機会を利用して、本校の良さを発信すればよい。「エンパワ＝しんどい学校」を一括りにされているように感じる。本校の違いはデュアルで地域の大人が面倒を見てくれている点。エンパワは当たり前になっていく。本校はそこにデュアルがプラスされている。良いことは共有して広げていくべき。しんどいことを語れる場が作られているのは良いことで、それが「発表を聞く」姿につながっている。
- ・多文化も布施北の一つの特色。東大阪の高校で、中学校の教員向けのオープンキャンパスをやっていたのでそれに参加したが、良かった。本校でも6月の中高連絡会はあるが、それを大規模にすればよいのでは。特色を出してほしい。「面倒見のよい学校」をキャッチフレーズにしてもよいのでは。
- ・布施北生が入社した理由は「インターンシップに来て、育ててもらえると感じたから」と言った。特色としてインターンシップを大々的に充実させてほしい。「育ててもらえる」が入社理由になったように、面倒見の良い学校はやはり魅力的だと思う。それを強調できるようになってほしい。
- ・PTA活動の中で広報活動していくことも考えていければと思う。
- ・いいことを実践している教員の活動がポジティブに捉えられる職場になってほしい。
- ・本当の意味で良い方向へ変わっていけるよう、地域もデュアルを始めたころの最初の気持ちになって布施北を支えて応援していく。

5. 今後の予定等、諸連絡